

文化ファッション大学院大学の

現状と課題

自己点検報告書

平成 21 年度

平成 22 年 5 月

『平成21年度自己点検・評価報告書』作成にあたって

本大学院における自己点検・評価の具体的な活動を今年度は

1. 『文化ファッション大学院大学の現状と課題 自己点検報告書 平成21年度』
 2. 『文化ファッション大学院大学授業アンケート平成21年度』
- として2冊の報告書にまとめた。

本大学院の教授会、各種委員会、専攻会議等の取り組みを集約し、この点検・評価の報告書に各組織における審議遂行された現状と自己点検、改善方策等の主要内容を明記し、本大学院の教育目標に共通認識を持って改善の方策に取り組めるよう取りまとめた。

本大学院は、1研究科2専攻という小さな組織であり、学生数に対する教員の数が多いことから学生と直接改善改革を行うことができ、それにともなって多くの委員会組織の構築が遅れ、このような報告書の作成もことさら実施してこなかった。

そのため、本報告書は、認証評価の課題として作成してきたが、この認証評価を1つの目標として、恒常的に進める自己・点検評価のシステムを構築して、更なる教育の発展につながるよう活用すべく全学で努力していく。

平成22年5月31日

自己点検・評価委員会

目次

	ページ
事業計画	1
事業報告	4
ファッションクリエイション専攻会議	9
ファッションマネジメント専攻会議	13
教務委員会	21
カリキュラム検討委員会	23
学生生活委員会	25
留学生指導委員会	27
ハラスメント防止委員会	29
自己点検・評価委員会	31
ファカルティ・ディベロップメント委員会	33

平成21年度文化ファッション大学院大学 事業計画

1. 教育、授業関連、学科編成 等（学部・学科の変更、定員変更、カリキュラム変更等の計画）
 - ・平成21年度から、ファッションマネジメント専攻を経営管理コースのみとして、技術経営コースはファッションクリエイション専攻のテクノロジーコースと統合させる、そして、それぞれのコースのカリキュラム内容をプログラムとして位置づけ、新入生に対して教員の細やかな履修指導により希望のプログラムに導く。
 - ・科目等履修生の受け入れを開始する。受け入れ審査については、科目担当の教員だけでなくカリキュラム委員の評価も取り入れ、大学院レベルであるかどうかの厳しい判断をしていく。
2. 教職員の研究、研修（教育や研究における重点課題）
 - ・科学研究費補助金等の競争的資金の獲得を目指す。他大学で採用された科学研究費補助金の分担者や協力者として参加している教員はすでにいるが、本学が独自で採用されたものはない。教員同士、協力しながら前向きに取り組めるような環境の整備に努める。
 - ・「ファカルティディベロップメント」について、これまで専攻ごとに研修会等が実施されてきたが、研究科単位での研修会の実施や教員相互の授業内容の検討等に力を入れる。
3. 教育支援プログラム等の申請
 - ・平成20年度から実施した「BFGU ファッションウィーク」について他大学にはない性質のイベントであり、このプログラムを今年度から文部科学省等の種々の教育支援プログラムに申請する予定である。
4. コラボレーション
企業や自治体、他大学との連携を図っていききたい。
平成21年度の各コースの主な予定
ファッションデザインコース
 - ・日本、オーストリア友好140周年記念行事の一環として行われる、ウィーン市立モーデシュール・ヘッツェンドルフの学年末行事としての連携イベント「ウィーン市庁舎内でのファッションショー」に参加
櫛下町教授が講師として指導協力
 - ・伊勢丹「ヤング・ネクスト・ジェネレーション（ファッションショー）」に参加
 - ・新橋 Bice に於いて「ヴィジュアルブック写真展示及びPRパーティー」参加
 - ・アッシュペーパーフランスとの連携イベント「rooms 展示」参加
 - ・パリコレクション見学視察研修実施
 - ・渋谷区企画のインキュベーション事業に櫛下町教授がアドバイザーとして参画

ファッションテクノロジーコース

- ・岐阜県産業技術センターとの共同研究「ハンディタイプ張力測定装置による縫製条件データベースの実用化研究」
- ・大貫繊維（株）との共同研究「縫製糸の撚り数と縫製条件の研究」
- ・旭化成せんい（株）との共同開発「起毛裏地開発」
- ・（株）ユニクロとの共同開発「サンプル生産のシステム化「新・モノ作りシステム」
- ・ベトナム経済研究所との共同研究「ベトナムにおける実務教員（デザイン、テクノロジー、経営管理各コース）育成プログラム開発」
- ・産地縫製工場研修「北陸、愛知の産地・工場研修」
- ・山梨県介護福祉士養成支援に丸田准教授が研修講師として協力
- ・山梨県立大学の「サポートデザイン衣服展示会」に協力
- ・パリコレクション見学視察研修実施

ファッション経営管理コース

- ・渋谷区商工観光課の実施するファッションビジネスの起業家を育成・支援する「経営者チャレンジ塾」に山村教授が運営指導、講師として協力
- ・ニューヨーク見学視察研修実施

5. 国際交流

前項のコラボレーションにも提示

- ・日本、オーストリア友好 140 周年記念行事の一環として行われる、ウィーン市立モデーシュレー・ヘッツェンドルフの学年末行事としての連携イベント「ウィーン市庁舎内でのファッションショー」に参加
櫛下町教授が講師として指導協力
- ・ベトナム経済研究所との共同研究「ベトナムにおける実務教員（デザイン、テクノロジー、経営管理各コース）育成プログラム開発」
- ・IFFTI 論文コンクールに鈴木邦成准教授が入選 4/2,3 にロンドンに於いて研究発表

6. 学生募集、広報活動 留学生の対応

昨年度同様に、補助金満額獲得のために最低でも定員の 7 割は確保したい。リクルートのアンケートによると、大学院の魅力として「教員の質」が一番に挙げられる。本学の充実した専任教員を大いに活用、アピールして認知度を高める。特にファッションマネジメント専攻については、本学に入学するメリットを明確に打ち出し他大学へ働きかけて行く。

そして、ホームページの内容について FAQ（質問・回答集）等を盛り込みながらさらに充実させ、また魅力ある入学案内を作成し学生募集に努める。

留学生について、「私費外国人留学生授業料減免制度」を実施しているが、国からの補助は申請者の約 4 割である。そのため、平成 21 年度は申請資格の成績係数を再検討して、優秀な学生のみにも適用する。

7. 就職対応

修了年次の学生のために、企業訪問・就職先開拓を強化していく。特に、本学の特徴である実務家教員の存在を大いに活用し、企業との太いパイプを構築していく。

インターンシップを就職のための一つ的手段としてとらえ、希望研修先の獲得に努める。

また昨年度来同様、文化服装学院の就職指導室の協力を得て、修了生に対してより多くの情報を提供していく。

8. 教育環境整備

平成 21 年度入学生数について、特にファッションテクノロジーコースとファッション経営管理コースがほぼ倍増したため、実習室、学生用備品（机、椅子、ロッカー等）、パソコン等を追加しなければならない。実習室については I 館には空きスペースがないため、D 館、または E 館等の教室使用状況を大学、学院に確認のうえ使用許可を得ていく。また、I 館コンピュータ実習室、H 館講義室の収容定員も超えたため拡張等を行う。

9. 中・長期計画

- ・社会人からの要望もあり、全日制の学生とは別の講座の開講を目指して具体的な研究を始める。
- ・夏期に集中して行う公開講座実施を目指して具体的な研究を始める。

10. 人事、他

- ・教員について、非常勤講師が担当している科目のシラバスの内容について、専任教員が指導可能であると研究科長・専攻長・主任教授が判断した場合は、極力専任教員が担当する。
ファッションテクノロジーコースと合併するファッション技術経営コースの担当教員を、所属はファッションマネジメント専攻として、研究室はデザインコース、テクノロジーコース、経営管理コースにそれぞれに振り分ける。
- ・学費について、これまで学費とは別に預かり金として徴収していた学習諸経費を、平成 22 年度から実験実習費に加算して学費とする予定である。そのために平成 21 年度に学則変更を文部科学省に申請する。

平成21年度文化ファッション大学院大学 事業報告

1. 教育、授業関連、学科編成 等

- 1) 平成21年度から、ファッションマネジメント専攻を経営管理コースのみとして、技術経営コースはファッションクリエイション専攻のテクノロジーコースと統合させ、それぞれのコースのカリキュラム内容をプログラムとして位置づけ、新入生に対して教員の細やかな履修指導により希望のプログラムに導く。

この結果、ファッションテクノロジーコースへの入学生数が、前年度7名に対して13名とほぼ倍増した。

- 2) 科目等履修生の受け入れを開始する。

今回は科目等履修生の希望者はいなかったが、聴講生の希望者が後期から1名受講した。この聴講生は、アパレル企業の役員（40歳）で、主にファッションマネジメント専攻の科目を11科目受講した。

2. 教職員の研究、研修（教育や研究における重点課題）

- 1) 科学研究費補助金等の競争的資金の獲得を目指す。

他大学で採用された科学研究費補助金の分担者や協力者として参加している教員はすでにいるが、本学が独自で採用されたものはない。教員同士、協力しながら前向きに取り組めるような環境の整備に努め、ファッションマネジメント専攻の准教授が科学研究費補助金の基盤研究（C）社会科学の分野に「地域産業集積地間における静脈ロジスティクスネットワークの基盤構築に関する研究」で応募したが、残念ながら不採用であった。

- 2) FDについて

これまで専攻ごとに研修会等が実施されてきたが、研究科単位での研修会の実施や教員相互の授業内容の検討等に力を入れ、本大学院専任教員全員で、一泊二日の新潟県繊維産地企業説明及び見学の研究出張を行った。その際に、開学5年目を迎えた本大学院の今後の方向性及び学生の授業アンケートをもとに授業内容の再確認等を実施した。

3. 教育支援プログラム等の申請

- 1) BFGU ファッションウィーク

平成20年度から実施した「BFGU ファッションウィーク」について他大学にはない性質のイベントであり、このプログラムを今年度から「専門職大学院等教育推進プログラム」に応募する予定であったが、平成21年度は本大学院に該当する分野の募集がなかったため応募できなかった。次年度に備えることとした。

4. 企業や自治体、他大学との連携、コラボレーション

1) ファッションデザインコース

- ① 4月 (株) コム デ ギャルソンの 2009 年度新入社員を対象に「プロフェッショナルとしての店頭販売の知識」という演題のもと、担当教員が専門毎に講義を行なった。(受講生は約 30 名で、企画職・販売職他)
- ② 6月 本大学院とウィーン市立モーデシュレー・ヘッツェンドルフ校交換プログラムにおける「ウィーン市庁舎内でのファッションショー」に教員、学生が参加し、同行の教授はコンテストの審査員も行なった。
- ③ 7月 **JFW International Fashion Fair (IFF)** (織研新聞社主催) において作品を出展した。
- ④ 7月 本大学院と文化服装学院生涯学習センター共催による特別講習会「オートクチュールの仕事〜デザインとパターン」で研究科長の教授が講演を行なった。
- ⑤ 9月 東京でのドイツのデュオ・アーティストのエルムグリーン&ドラッグセット によるスカルプチャー作品展「**SUPERMODELS**」に学生が参加した。
- ⑥ 9月 コシノジュンコ氏からの要請で、東京で行なわれた「モンブラン・デ・ラ・キューチュール アートパトロネージ・アワード」において学生が作品を発表した。
- ⑦ 10月 フランス パリコレクション視察研修旅行を実施。20 以上のパリコレクション見学を視察研修や展示会、美術館の見学、セレクトショップリサーチなど市場調査を行なった。
- ⑧ 10月 ドイツ ベルリンで開催された **ASIA-PACIFIC WEEKS BERLIN** の「ファッションパトロンズ」に学生が参加した。(JFW 新人デザイナーファッション大賞実行委員会支援による)
- ⑨ 10月 ウェアの合同展示会「**PLUG IN**」(織研新聞社主催) に学生作品を出展。
- ⑩ 10月 上海の東華大学と上海装苑の学生を対象に、本学教授が講演を行なった。
- ⑪ 12月 「日本ーブラジル ファッションシンポジウム」において本学教授が複数名参加して講演を行ない、相談会にも出席し、交流を深めた。
- ⑫ 2月に本学で行なわれた「**BFGU ファッションウィーク**」において、オーストリア・ウィーン市立ファッション大学ヘッツェンドルフ校とファッションデザインコース 2 年次によるジョイントショーを開催した。
- ⑬ 2月アッシュ・ペー・フランス (株) 主催による合同展示会「**rooms20**」の若手支援ブースに学生作品出展。
- ⑭ 3月東京ミッドタウン・タワーにて行なわれた「ファッションデザインシンポジウム 2010 (独立行政法人中小企業基盤整備機構主催)」のファッションクリエイターの育成と活用をテーマにしたパネルディスカッションに小杉教授がパネリストとして参加した。

2) ファッションテクノロジーコース

- ① 岐阜県産業技術センターとの共同研究「ハンディタイプ張力測定装置による縫製条件データベースの実用化研究」を実施した。
- ② 大貫繊維 (株) との共同研究「縫製糸の撚り数と縫製条件の研究」を実施した。

- ③学生、教員全員参加の産地縫製工場研修「北陸、愛知の産地・工場研修」を実施した。
- ④山梨県介護福祉士養成支援に丸田准教授が研修講師として協力した。
- ⑤山梨県立大学の「サポートデザイン衣服展示会」に丸田准教授が協力した。
- ⑥パリコレクション見学視察研修実施（ファッションデザインコースと合同）

3) ファッション経営管理コース

- ①渋谷区商工観光課の実施するファッションビジネスの起業家を育成・支援する「経営者チャレンジ塾」に教授が運営指導、講師として協力。
- ②9月 ロンドン・パリ見学視察研修を実施した。

5. 国際交流

IFFTI 論文コンクールに准教授が入選。4月にロンドンで行なわれた IFFTI 総会において「アパレル・ファッション産業における SaaS 型 WMS の可能性」のテーマで発表を行なった。

6. 学生募集、広報活動 留学生の対応

ホームページの充実と入学案内作成に力を入れた。特に専任教員の紹介についてプロフィール等を追加・整備し、また本大学院で自分の修了後の目標に応じて、入学後に何を学べば良いかを詳しく解説した。

広告のサイトについては4社と契約し、専任教員をビジネス導線にて検索ができるオプションを追加して本大学院の売りをアピールした。また、すべてホームページにリンクさせ、昨年同様一般に認知させることに重点を置いた。また、雑誌、新聞等では社会人向けに主にファッションマネジメント専攻を前面に打ち出した。

資料請求者の数は369名、平成22年度新入生数73名(前年比プラス1名、定員充足率91.3%)であった。

「私費外国人留学生授業料減免制度」については、今年度から対象者の基準のひとつの成績係数を2.0から2.5に引き上げた。これにより、前年の留学生全体での対象者の割合は84.4%であったのに対して、平成21年度は56.8%に減った。

7. 就職対応

修了年次の学生のために、企業訪問・就職先開拓を強化し、実務家教員の存在を大いに活用し、企業とのパイプ構築を目指し、インターンシップを就職のための一つの手段としてとらえ、希望研修先の獲得に努めた。

就職ガイダンスや学生の就職相談、求人状況では文化服装院と連携をとり、厳しい就職状況に対応した。

実務家教員も含めた専任教員からの紹介により就職が決定した学生がでていく。

8. 教育環境整備

- ①学生増加に伴いファッションテクノロジーコースの一年次生のために、実習室を整備し、机、椅子等備品を増加人数分購入した。
- ②学生増加に伴いコンピュータ実習室を拡張し、パソコン 10 台追加購入した
- ③アパレル CAD コンピュータ実習室の CAD 機器を 4 セット追加購入した。

9. 中・長期計画

- 1) 社会人からの要望もあり、全日制の学生とは別の講座の開講を目指して具体的な研究を教務委員会等で今後検討していくこととした。
- 2) 夏期に集中して行う公開講座実施を目指して具体的な研究を始め、平成 22 年度 7 月後半に一般人を対象にした「メンズ」と「レディース」を中心とした講座を実施するための準備をすすめている。

10. BFGU ファッションウィークの実施

- 1) 平成 22 年 2 月に第 2 回の本学全体のイベント「BFGU ファッションウィーク」を実施した。

「Asian Network」ークリエイション、グローバリゼーション、イノベーションー
「アジア諸国が連携を密にし、グローバルに活動するクリエイションとマネジメント」
をテーマに、広くファッション界からパネリストを招いたシンポジウムや本学院生によるファッションショー、研究発表を行なった。ファッション界の人々が対話・議論をし、また問題提起をすることでアジアのファッションとファッションビジネスを発展させることを目指した。第 2 回目の開催となった今回は 3000 名余の来場があり、研究成果を数多くの来場者の前で発表し、また、レセプション等では企業の現場担当との意見交換ができるなど、学生にとっても有意義なものとなっている。各メディア上でのジャーナリストの講評も、高い評価を得た。

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>大学院という性格上、教員の数・コースの数とも少なく、会議のほかにも日常的に連絡を取っているが、尚一層専攻に特化した事項について、教学事務室、各委員会とも連携をきめ細かく行い、更に 2 コース間・他専攻の情報を共有して、カリキュラム内容の向上、院生の研究生生活の向上の一助としていく。</p> <p>(1) BFGU FW・入試・文化祭など学校行事の充実 (2) 教学事務室や各委員会との連携強化 (3) 留学生数の増加に伴い、日本語会話の充実とレベルの維持 (4) 授業アンケートを実施し、改善に努める</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>学術教員は当然だが、実務家教員の割合も多く、各教員の報告事項に伴って、外部とのコラボレーションが頻繁に導入された。開学間もないことなども考慮し、専攻として採択できる案件については、専攻生と各種業者とのコラボレーション、教員と各種業者との相互研究（委託事業を含む）、学校と外国政府機関・学校と他大学（外国を含む）の交流事業などであり、授業との兼ね合いや時間の許容範囲内など条件が許す限り実行した。</p> <p>また、クリエイション専攻入学希望者の多い、中国上海での入学試験の試験官派遣は、代理機関に頼ることなく、直接授業の指導に当たる教授を派遣したことで、非常に適切な結果が得られた。</p> <p>授業アンケートをとり、特に専攻として参考にしなければならない事項があり、参考にした。</p>
<p>次年度への課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 授業アンケートは、学生数の増加に伴って、教育環境に対する指摘もあったので、より良い環境整備に取り組む。</p> <p>(1) 教室の拡張 (2) 教育設備・授業の仕器の充実 (3) 教員数の増強</p> <p>2. 子供から大人まで、ファッション全体に対する一般の購買者の服育を心がけ、その良さや適切な判断力を養う。</p> <p>(1) クリエイター向け、一般向けの夏期公開特別講座を開く。</p> <p>3. 様々な外部とのコラボレーションは、1つのコースに偏っているので、2コースがバランス良く実施できるよう働きかけていく。</p> <p>4. 専攻として、更にきめ細かい提案や各機関との連携を密にし、院生の教育環境の一層の充実を目指して、好結果が得られるよう努力していく。</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 9 日	1.各自あいさつ 2.留学生の日本語対策について。 (1) 学内では日本語で。 (2) 留学生の席を隣同士にしない。
平成 21 年 5 月 7 日	1.教学事務室からの連絡事項 (1) 学則変更について 平成 22 年度新入生より「預かり金」の名目を「演習実習費」として徴収する。 (2) 新型インフルエンザの対応について 保健所への連絡他素早い対応を行う。
平成 21 年 6 月 11 日	1.ハラスメント審議委員会の報告 2.アスベスト問題について (1) I 館にアスベスト残が判明したので、授業に影響の出ない範囲で至急(夏季休暇を利用)除去工事に入る。 3.各自報告事項抜粋 (1) デザインコンテスト入り始めた (2) ルーマニア展に皇族来賓あり (3) 「衣服解剖演習」には複数企業からメンズジャケットの提供あり (4) 最近の薄物素材の需要に対して、イトキン岐阜技術センターで複数業種の研究として「オルガン針の細いもの」の生産に着手
平成 21 年 7 月 9 日	1.各自報告事項抜粋 (1) テキスタイルスピリットで審査員・青山学院大と信州大のワークショップを開く 2.7 月 25 日の特別講座について 3.ハラスメント審議委員会から 4.八王子工場見学引き受けについて
平成 21 年 9 月 10 日	1.教学事務室からの連絡事項 (1) 後期科目について (2) マネジメント専攻聴講生あり (3) 次回カリキュラム検討委員会中止 (4) 入試検討委員会報告 (5) 夏期北竜湖セミナーについて 2.各自報告事項抜粋 (1) タイ経産省の依頼により三菱商事とテキスタイル開発を指導

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 10 月 8 日	1.各自報告事項抜粋 (1) PLUG IN 出展について (2) BFGU FW の準備について
平成 21 年 11 月 12 日	1.各自報告事項抜粋 (1) タイ・バンコクより来年 4 月学生の作品展示の依頼あり (2) 文化祭来場者は企業の方が多くなった・外光を取り入れた展示はあか抜けしていた (3) パタンナーがクリエイター化してきた (4) BFGU FW の準備・ヴィジュアルブックの準備
平成 21 年 12 月 3 日	1.教学事務室からの連絡事項 (1) 12 月 5 日入試説明会について (2) キャリア形成支援委員会の開催について (3) 自己点検評価について 2.各自報告事項抜粋 (1) ファッションプロダクトについてテレビ出演 (2) 第二外国語に中国語が必要になった
平成 22 年 1 月 14 日	1.入試について (1) 現在の入試出願状況 (2) 面接官について
平成 22 年 2 月 4 日	1.BFGU FW 来客数について (返信のあったもの) (1) 来年度のスタイルについて 2.専攻別判定会議について 3.FD について 4.テキスタイルについて (1) タイ・バンコクへ学生の作品出展について (2) 一宮テキスタイルコンテストについて (3) 国連大学でのシンポジウムについて
平成 22 年 3 月 4 日	1.BFGU FW について (1) ウィーンの学生とのコラボレーション成功 (2) 展示はほぼ成功 2.甘撚りの糸の商品化を目指す

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.ファッション経営管理コース 1 年が 20 名を超えたことから、プロジェクト科目の新たな取組が要求される。 2.フィールドプロジェクトのインターンシップの時期について検討する。 3.今年度も引き続き B F G U ・ F W の開催準備を進める。 4.ヨーロッパへの海外研修を行う。 5.F D の充実を図る
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.ファッション経営管理コース 1 年の基礎研究プロジェクトの中間報告について、今年度からゼミ内で行うこととした。また次年度から 2 年の修了研究プロジェクトの中間報告もゼミ内で行うこととした。 2.フィールドプロジェクトのインターンシップについて、今年度から 1 年後期試験後の春休みに実施しても単位認定することとした。 3.B F G U ・ F W シンポジウムは、ファッションマネジメント専攻の教員が中心となって行った。 4.海外研修は、ロンドン・パリで行い、ブレタポルテ協会、I F M の特別講義のほか、コレクション・見本市・店舗等を視察した。 5.F D の一環としての教員研修は、本年はファッションクリエイション専攻の教員と合同で行った。
<p>次年度への課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.平成 22 年度より、新 1 年生も 20 名を超えており、中間報告についてはゼミ内とするが、最終の 1 年次基礎研究プロジェクト発表会、2 年次修了研究プロジェクト発表会の方法を再検討する必要がある。 2.教員構成の変化、今後の新カリキュラム導入を見据えながら、カリキュラム担当者の配置など、中期的な計画の策定が必要となる。 3.平成 22 年度より新たに導入する社会人入試に関する情報発信、入試対応を進める。 4.渋谷のインキュベーション施設を活用した、オープンカレッジの開設を検討する。

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 9 日	1. 集中期間の結果報告 2. 履修指導 3. プロジェクト科目 (1) 修了研究プロジェクト (中間報告等) (2) フィールドプロジェクト (3) 1 年次基礎研究プロジェクト (6 月よりスタート。それまではブリーフィング) 4. その他 (1) オフィスアワー各教員より提出 (2) 学生委員
平成 21 年 5 月 7 日	1. プロジェクト科目 (1) 修了研究プロジェクト (2) フィールドプロジェクト (3) 1 年次基礎研究プロジェクト (6 月よりスタート。それまではブリーフィング) 2. 各委員会の現状報告 3. その他 (1) 就職活動企業先への推薦書 (G P A3 以上) (2) 研究費予備費
平成 21 年 6 月 11 日	1. プロジェクト科目 (1) 修了研究プロジェクト (10/13 4~5 時限、全体中間報告) (2) フィールドプロジェクト (インターンシップの進行状況) (3) 1 年次基礎研究プロジェクト・グループ研究 (8/6 中間報告、北竜湖にて最終報告、文化祭にて展示) 2. ファッションマネジメント専攻・海外研修 7 泊 9 日 (9/29~10/7) ロンドン 3 泊・パリ 4 泊 店舗視察・プレタポルテ協会・I F M・展示会視察・ コレクション・美術館 3. その他 (1) 入試説明会 (7/18) (2) 特別講義 (3) 夏休み中、2F アスベスト除去工事

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 7 月 9 日	<p>1. プロジェクト科目</p> <p>(1) 修了研究プロジェクト (10/13 4～5 時限、全体中間報告)</p> <p>(2) フィールドプロジェクト (インターンシップの進行状況)</p> <p>(3) 1 年次基礎研究プロジェクト・グループ研究 中間報告 / 8/6 10:00～13:00 I-22 北竜湖にて最終報告 文化祭にて展示</p> <p>2. 夏期北竜湖セミナー 専攻別ミーティングの構成</p> <p>3. その他</p> <p>(1) ファッションマネジメント専攻・海外研修</p> <p>(2) 学内向け入試説明会の結果</p> <p>(3) 学外向け入試説明会 (7/18)</p> <p>(4) 特別講義</p> <p>(5) I F F 見学 (7/24 14:30)</p> <p>(6) B F G U 学生委員 委員長 林 副委員長 関根</p>
平成 21 年 9 月 10 日	<p>1. 夏期北竜湖セミナー 専攻別ミーティング、合同発表会</p> <p>2. プロジェクト科目</p> <p>(1) 修了研究プロジェクト (10/13 4～5 時限、全体中間報告)</p> <p>(2) フィールドプロジェクト (インターンシップの進行状況)</p> <p>(3) 1 年次基礎研究プロジェクト・グループ研究 北竜湖にて最終報告 ー15 分 質問 5 分 文化祭にて展示</p> <p>(4) 1 年次基礎研究プロジェクト・個人研究 (10/1～)</p> <p>3. 入試</p> <p>(1) 試験問題作成・打合せ会議 9/24 (木) 13:30</p> <p>(2) 試験日 / 10/17 (土)、18 (日)</p> <p>4. その他</p> <p>(1) ファッションマネジメント専攻・ヨーロッパ研修</p> <p>(2) r o o m s 見学 (9/17 (木) 14:00)</p> <p>(3) 後期より聴講生</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 10 月 8 日	<p>1. プロジェクト科目</p> <p>(1) 修了研究プロジェクト (10月13日5時限～、全体中間報告)</p> <p>(2) フィールドプロジェクト (インターンシップの進行状況)</p> <p>(3) 1年次基礎研究プロジェクト・個人研究</p> <p>2. 文化祭</p> <p>(1) マネジメント専攻展示/1年次基礎研究プロジェクトの グループ研究展示・全体展示・入学案内</p> <p>3. 入試</p> <p>(1) I期試験日/ 10/17(土)、18(日)</p> <p>4. その他</p> <p>(1) ファッションマネジメント専攻・ヨーロッパ研修</p> <p>(2) 10/29(木) 月曜授業</p> <p>(3) ファッションビジネス学会全国大会</p>
平成 21 年 11 月 12 日	<p>1. 修了研究プロジェクト</p> <p>(1) 最終研究発表会ー 1/28(木) 9:30 1/12(火) サマリー提出 1/19(火) 報告書提出</p> <p>(2) BFGUファッションウィークにて、修了研究発表ー 2/2(火) 視聴覚室 1/29(金) 提出 2/3リハーサル 12/18(金) までにタイトル提出</p> <p>2. 1年次基礎研究プロジェクト</p> <p>(1) BFGUファッションウィークにて、基礎研究発表ー 2/4(木) 視聴覚室</p> <p>3. 文化祭結果</p> <p>4. 入試</p> <p>(1) 入試説明会/ 12/5(土)</p> <p>(2) II期試験日/ 1/16(土)・17(日)</p> <p>5. その他</p> <p>(1) ファッションビジネス学会全国大会 (11/28)</p> <p>(2) 日本ブラジルファッションシンポジウム (11/30～12/5)</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 12 月 3 日	<p>1. 修了研究プロジェクト</p> <p>1/12 (火) サマリー提出</p> <p>1/19 (火) 修了研究報告書提出</p> <p>1/28 (木) 9 : 30 最終研究発表会 (H402)</p> <p>当日発表終了後、修了研究発表者を決定</p> <p>2/2 (火) 10 : 00~12 : 00</p> <p>BFGUファッションウィークにて、修了研究発表 (視聴覚室) (リハーサルは2/1 (月))</p> <p>2. 1年次基礎研究プロジェクト</p> <p>1/29 (金) 基礎研究報告書提出</p> <p>2/4 (木) 9 : 30~17 : 00</p> <p>BFGUファッションウィークにて、基礎研究発表 (視聴覚室) (リハーサルは2/3 (水))</p> <p>3. 入試</p> <p>(1) 入試説明会 / 12/5 (土)</p> <p>(2) II期試験日 / 1/16 (土)、17 (日)</p> <p>*試験問題検討会議 / 12/8 (火) 12 : 50</p> <p>4. その他</p> <p>(1) キャリア形成支援委員会 / 12/16 (水) 15 : 10</p> <p>(2) 自己点検評価への協力</p> <p>(3) 来年のマネジメント専攻教員合宿 3/15・16</p> <p>(4) 渋谷インキュベーション施設の委員会</p>
平成 22 年 1 月 14 日	<p>1. 修了研究プロジェクト</p> <p>1/12 (火) サマリー提出 (済み)</p> <p>1/19 (火) 修了研究報告書提出</p> <p>1/28 (木) 9 : 30 最終研究発表会 (H402)</p> <p>当日発表終了後、BFGUFW発表者を決定</p> <p>2/2 (火) 10 : 00 BFGUFWにて修了研究発表 (視聴覚室) (リハーサルは2/1 (月))</p> <p>2/16 (火) 科目評価会議 (2年修了研究評価)</p> <p>2. 1年次基礎研究プロジェクト</p> <p>1/29 (金) 基礎研究報告書提出</p> <p>2/4 (木) 9 : 30 BFGUFWにて基礎研究発表 (視聴覚室) (リハーサルは2/3 (水))</p> <p>2/16 (火) 科目評価会議 (1年基礎研究評価)</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>3. 入試</p> <p>(1) II期試験日 / 1/16 (土)、17 (日)</p> <p>(2) 入試判定会議 / 1/19 (火) 13:00</p> <p>4. マネジメント専攻教員合宿</p> <p>(1) 3/15・16 新潟方面</p> <p>5. その他</p>
平成 22 年 2 月 10 日	<p>1. 修了研究プロジェクト～修了判定</p> <p>(1) 2/16 (火) 科目評価会議 (2年修了研究評価)</p> <p>審査委員会に提出。「修了研究プロジェクト」評価報告の作成。</p> <p>(2) 3/2 (火) 13:30 審査委員会にて審査。</p> <p>学位を授与できるか否かの意見を添えて教授会に文書で報告。</p> <p>学位授与・審査結果報告の作成</p> <p>(3) 3/5 (金) 修了判定特別教授会</p> <p>(4) 教授会の結果を、研究科長が文書で学長に報告。</p> <p>2. 1年次基礎研究プロジェクト</p> <p>2/16 (火) 科目評価会議 (1年基礎研究評価)</p> <p>3. 入試</p> <p>(1) III期試験日 / 2/27 (土)、28 (日)</p> <p>4. 次年度シラバス作成</p> <p>(1) 基礎研究プロジェクト</p> <p>文化祭展示について、研究発表について</p> <p>(2) 修了研究プロジェクト (全体中間報告は1回)</p> <p>5. その他</p> <p>(1) マネジメント専攻教員合宿</p> <p>3/15・16 新潟方面</p>
平成 22 年 3 月 4 日	<p>1. 修了判定～学位記授与式</p> <p>(1) 3/5 (金) 修了判定特別教授会</p> <p>(2) 3/13 (土) 学位記授与式</p> <p>2. 新年度授業</p> <p>(1) 4/1 より、導入集中授業スタート</p> <p>「ファッションビジネス基礎理論」</p> <p>「ファッション商品基礎理論」(学外研修含む)</p> <p>(2) 4/7 より通常授業スタート (1年は4/10より)</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>3. 1年次基礎研究プロジェクト</p> <p>(1) 6月より、グループ研究がスタート (4・5月の授業は、北竜湖セミナーに充当) 来年度より、文化祭グループ研究展示はなし</p> <p>(2) 後期より個人研究</p> <p>4. 修了研究プロジェクト</p> <p>(1) 4月よりスタート</p> <p>(2) 来年度より中間報告はすべてゼミ内プレゼンテーション</p> <p>5. 研修</p> <p>(1) 3/15・16 新潟方面</p> <p>6. その他</p> <p>(1) 渋谷インキュベーション施設を活用した、企業人対象のオープンカレッジ</p>

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新年度委員会の発足・活性化 2. 各種規定の見直し及び改訂 3. 社会人入学及び入試方法 4. 成績優秀者への対応 5. 各委員会との連携、情報交換 6. 次年度教授会、専攻会議、各委員会等日程
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新年度委員会の発足・活性化 委員長、書記選任、会議日程、夏期北竜湖セミナー日程の決定を行なった。 2. 各種規定等の見直し及び改訂 研究費、建学の精神、学長並びに教員選考基準、教務委員会規定等の追加、改定を行なった。 3. 社会人入学及び入試方法 社会人の資格要件や AO 入試とその内容について審議し、平成 23 年度から実施とした。それに伴う社会人向けのカリキュラム・プログラムの構築を行なった。 退学者が社会人として再入学する場合の受け入れ体制や修了生研究生制度を設け、多様な入学窓口を設けた。 4. 成績優秀者への対応 2 年修了時・学位記授与式にて表彰。1 年次成績優秀者にはスカラシップや留学生の授業料減免で実施済み。 5. 各委員会との連携、情報交換 現行、12 委員会あり、内容・範囲の整理統合で効率的な委員会組織を検討した。新たに紀要編集委員会を設けた。 6. 次年度教授会、専攻会議、各委員会等日程の決定
<p>次年度 (平成 22 年度) への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 規定の見直し及び改訂 (教員の昇任及び昇格基準等) 2. 夏期公開講座、文化インキュベーションセンター、産学交流、国際交流等対外交流 3. ブランディング、認知度向上対策 4. 各委員会との連携、情報交換

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 5 月 13 日	1.本年度日程、書記選任 2.研究費規定変更 3.その他：GPA 優秀者について意見交換
平成 21 年 6 月 18 日	1.2 年修了時の GPA 優秀者の表彰 2.退学者の社会人再入学 3.夏期北竜湖セミナー 4.その他、新客員教授招聘
平成 21 年 10 月 22 日	1.一般及び社会人入学試験方法 2.各委員会組織の再編・整理統合
平成 21 年 11 月 19 日	1.規定・追加について 学長選考基準、教員選考基準・同施行細則 2.社会人入学入試方法及びカリキュラム AO 入試とし社会人向け教育プログラムの構築 3.BFGU ブランディング ブランド、認知度向上
平成 21 年 12 月 10 日	1.学位記授与式時、成績優秀者表彰 2.次年度夏期公開講座 3.修業（在籍）年限延長 4.次年度教授会、専攻会議、各委員会日程 5.教務委員会規定・追加
平成 22 年 2 月 16 日	1.研究生制度 2.社会人入試、留学生入試 3.留学生授業料減免 4.新入学案内 5.その他：教員の評価、昇任・昇格 授業評価・アンケート実施要項
平成 22 年 3 月 11 日	1.建学の精神 2.教員及び実務家教員の評価、昇任・昇格等基準 3.研究生制度 4.研究紀要、紀要編集委員会

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1.カリキュラム内容の検討 (1) 授業内容の見直しによる科目の統廃合の検討 (2) ファッションビジネス研究科として必要な科目の新設 (3) 科目名の見直し 2.研究科としての一気通貫科目新設の検討</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1.カリキュラム内容の検討 (1) 「ファッションテクノロジー論」と「ファッションテクノロジー演習」を「ファッションテクノロジー演習」へ統合することにより単位数の削減と授業効率の向上を実現した。 (2) 起業を目指すデザイナーのために、クリエイション専攻で「デザイナーブランドの商品企画」を新設した。 (3) 科目名内のⅠとⅡ、AとBの使用における考え方の統一をはかった。 2.研究科としての一気通貫科目新設の検討 2 専攻相互の知識・理解を目的として、ファッションビジネス全体（川上から川下まで）を同じ条件で受講する一気通貫科目として「ファッションビジネスメソッド（演習）」を 2010 年度より 2 年生前期に集中授業で開講した。</p>
<p>次年度への課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1.カリキュラム内容の検討 業界実務内容の需要に対応する更なる教育充実を図るため、きめ細かく検討していく。 (1) 科目の統廃合や新設、科目名の見直し等の検討 (2) 「ファッションビジネスメソッド（演習）」についての検討 2.学生数増加に伴うクラス編成等についての検討 3.第二外国語としての中国語の検討</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 16 日	<p>1.本年度のカリキュラム検討委員会の開催方法について</p> <p>2.2009 年度カリキュラムについて</p> <p style="padding-left: 40px;">「アパレル人間工学Ⅱ」開講時期の変更</p> <p style="padding-left: 40px;">「クリエイション演習Ⅱ」担当者の変更</p> <p>3.カリキュラムや授業方法についての意見交換</p>
平成 21 年 5 月 14 日	<p>1.2010 年度カリキュラムについて</p> <p style="padding-left: 40px;">「デザイナーブランドの商品企画」新規開講</p>
平成 21 年 10 月 13 日	<p>1.2010 年度カリキュラムについて</p> <p style="padding-left: 40px;">変更予定案について意見交換</p> <p>2.研究科一気通貫科目についての意見交換</p> <p style="padding-left: 40px;">「ファッションビジネスメソッド（演習）」</p>
平成 21 年 11 月 19 日	<p>1.2010 年度カリキュラムについて</p> <p style="padding-left: 40px;">「グラフィックワーク」「デザイナーブランドの商品企画」「アパレル環境マネジメント」の担当者決定</p> <p style="padding-left: 40px;">「ファッションビジネスメソッド（演習）」の新設</p> <p style="padding-left: 40px;">「ファッションテクノロジー演習」「ファッションテクノロジー論」の統合</p> <p>2.科目名でⅠとⅡ、AとBの考え方の統一の必要性について意見交換</p>
平成 21 年 12 月 10 日	<p>1.2010 年度カリキュラムについて</p> <p style="padding-left: 40px;">「ファッション英会話」「ビジネス英語」名称変更</p> <p style="padding-left: 40px;">「アパレル生産論」開講期の変更</p> <p style="padding-left: 40px;">「アパレル生産論」「経営情報システム演習」「企業経営論」担当者変更</p> <p>2.カリキュラム検討委員会規程について</p> <p>3.第二外国語としての中国語の必要性について</p>

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1.本学に学ぶ院生に対する適切な修学の環境を整備し、その他の事項に関する相談及び指導を行う。</p> <p>(1) 共同施設使用について (コンピュータ実習室)</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1.本大学院に学ぶ院生に対する適切な修学の環境を整備し、その他の事項に関する相談及び指導を行う。</p> <p>(1) 9月に実施の夏期北竜湖セミナーにてコンピュータ実習室の使用の現状を映像にて注意を促した。その後、学生のコンピュータ実習室の使用状況も変わり、一定の効果があった。</p>
<p>次年度 (平成 22 年度) への課題</p>	<p>1.各教室・実習室などの共同施設についての美化の徹底。</p> <p>(1) 4月に行われるオリエンテーションにて教室、共同使用施設・場所等の使用についての注意事項の提示。</p> <p>(2) ポータルサイトの活用を促す。</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 6 月 2 日	1.委員紹介 2.文化女子大・文化服装学院・文化外国語専門学校の学生生活委員会について意見交換。 3.BFGU 独自の活動について。 (1) 院生主体の活動をサポートする。 (2) 留学生に対するサポートの必要性。 4.OB 会について。 (1) 修了生同士のネットワーク作りの必要性。 (2) 修了生と在校生のネットワーク作りの必要性。
平成 21 年 7 月 27 日	1.総合学生生活委員会の報告。 2.実習室使用时注意事項。(コンピューター実習室) (1) FW 全体会議 (7/28) にて実習室使用時の注意を促す。 (2) 夏期北竜湖セミナーにて実習室の現状を映像にて院生に提示。
平成 21 年 9 月 17 日	1.今後の活動について。 (1) 文化祭・BFGU ファッションウィークにて院生同士の交流を主としたイベントを検討。 (2) 夏期北竜湖セミナーの懇親会について検討。 (3) 就職試験・面接についてのレクチャーを検討。
平成 21 年 11 月 19 日	1. BFGU ファッションウィークにて本委員会としての提案。 2.今後の活動について (1) インターンシップの現状と改善の必要性について検討。
平成 22 年 2 月 17 日	1.インターンシップの現状と改善の必要性について検討。 次年度、キャリア形成支援委員会と併に検討する。 2.次年度にむけて意見交換。 (1) 各教室、実習室の美化につとめる。 (2) F・経営管理コースの院生に I-21 を開放する。 (3) ポータルサイトの活用。

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 本学における留学生の大学院生活状況の把握</p> <p>(1) 留学生の現状の分析と将来発生しうる課題などの抽出</p> <p>(2) 解決策についての議論</p> <p>本学において高まる留学生の比率を考慮し、どのような課題があるか、あるいはどのような課題が今後生じうるかを検討し、その解決策について話し合う。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 本学における留学生の大学院生活状況の把握</p> <p>(1) 留学生の現状についての問題点の抽出を行った。その結果、現状では文化的な日本との相違などにより、マナー面などでの戸惑いがあるものの、大きな問題は発生していないということが確認された。ただし、留学生率が 30% を超える状況が今後より加速し、留学生率が一層、高まった場合、どのように対応すべきかを今後も委員会で話し合っ、必要とあれば解決策を教授会に提案しなければならないと考えられる。</p> <p>(2) 留学生の就職を支援する体制の構築も今後は望まれるが現状ではとくに対策を講じることは考えていない。将来的な課題と考えられるので、適時、委員会で話し合うこととしたい。</p>
<p>次年度 (平成 22 年度) への課題</p>	<p>1. 本学留学生の大学院生活状況の引き続きの把握</p> <p>(1) 大学院生活に十分に適応し、日本人学生とも円滑かつ友好的な関係を構築しているかどうか、長期欠席などを行う学生が出ないかなどについて、より深く状況を観察</p> <p>(2) その他、新たな問題・課題が発生しないかをチェックする体制を構築</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 5 月 20 日	<p>1.2009 年度の留学生指導委員会の運営の方向性</p> <p>(1) 隔月ごとに次回開催の可能性を検討し、議題が特にならない場合、「不開催」とする</p> <p>2.本学の留学生指導についての現状と課題</p> <p>(1) 現状では特に大きな問題は存在しないが、今後、日本の日本語学校などを経ず、東華大学等からダイレクトに本学に入学する学生の日本語能力が、基本的な理解力などについては問題はないと考えられるものの、入学当初、日本の日本語学校出身者などに比べてやや低い可能性があるがその場合の対処をどうするか</p> <p>(2) 留学生の中途退学者、長期欠席者への対応など</p> <p>(3) 留学生の日本における就職についてのサポートなど</p> <p>(4) 経済産業省が懸念する「大学の輸出管理」の問題</p>
平成 21 年 10 月 28 日	<p>1.本学の留学生指導についての最新事情</p> <p>(1) 学生の 30%を超える本学の留学生について</p>
平成 22 年 2 月 10 日	<p>1.2009 年度の留学生指導委員会の反省と来年度へ向けての課題</p> <p>(1) 留学生の自習室使用におけるマナーが低下している点、生活態度に問題がある点などが問題として浮上</p> <p>(2) 4月のオリエンテーションの際、留学生指導委員会の委員を留学生に紹介する場を持つようにすべきとの案</p> <p>2.本学の留学生指導についての現状と課題</p> <p>(1) 現在のところ、BFGU 創設以来、留学生の退学者は 1 名のみで、留学生が大きな不満を抱いているとは考えられない。</p> <p>(2) ただし、早めの対応を取ることで問題が深刻化しないように努めるべきである。留学生との相互理解も必要である。</p>

ハラスメント防止委員会

報告者：丸田 直美

提出日：平成 22 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1.ハラスメント防止に関する規程およびガイドラインの設定 2.ハラスメント審議委員会、ハラスメント防止委員会、相談員の役割の確認 3.学生への啓蒙活動</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1.ハラスメント防止に関する規程およびガイドラインの設定 4月1日より規程及びガイドラインを施行 2.ハラスメント審議委員会、ハラスメント防止委員会、相談員、の役割の確認 3.学生への啓蒙活動 (1) 学生に最も近い存在としての相談員の氏名を掲示すると同時に、授業内でも呼びかけることによって、学生に相談員の存在を示した。 (2) ガイドライン及び規程を教員全員に配布した。</p>
<p>次年度 (平成 22 年度) への課題</p>	<p>1.学生への啓蒙活動 (1) HP への相談員の連絡先の掲載の検討等</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 7 月 1 日	<ol style="list-style-type: none"> 1.ハラスメント防止に関する規程およびガイドラインについて 2.ハラスメント審議委員会、ハラスメント防止委員会、相談員の役割の確認 3.今後の啓蒙活動についての意見交換 4.今後の委員会活動について

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>・平成 22 年度機関・分野別認証評価の実施に対応 これまで委員会単位での自己点検・評価を行っていたが、機関別認証評価を受けるにあたり、データ・資料等もそろえたうえで自己評価報告書を作成する必要がある。自己流（委員会ごとに自己点検・評価）で行ってきた自己点検・評価を見直す機会をとらえ、精度向上に努める。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>自己評価報告書の内容検討、執筆者、執筆スケジュールを決定し執筆作業を進めた。今回の自己評価報告書作成で報告書作成に関する一定の作業手順が構築できた。データ・資料等の根拠を示すことの重要性を感じた。教員個々の取り組みとしてでなく、組織として、教育研究活動等の活性化をしていくことが、大学を運営していくうえで大切であることが、各基準項目から感じる事ができたので、教授会、各種委員会等の連携を重視し、組織立って行っていく。</p>
<p>次年度（平成 22 年度） への課題</p>	<p>1.平成 22 年度機関別、分野別認証評価の受審 認証評価を受けるにあたって関連する組織と連携し対処する。 2.自己点検・評価活動の活性化 平成 22 年度自己評価報告書を各研究室に配布し、問題点を共有することで、より全学的な取り組みとしていく。自己点検・評価活動自体が負担になっては継続しないと考えるので、日常的に PDCA サイクルが動く仕組みを考えていきたい。</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 5 月 13 日	1.本年度自己点検・評価委員会について (1) 委員紹介 2.認証評価システムの概要について (1) 認証評価システムの概要配布、説明 (2) 機関別評価スケジュールの説明 3.各委員会等へ自己点検・評価を依頼
平成 21 年 6 月 4 日	1.第 2 回分野別評価検討委員会報告 2.機関別自己評価報告書本編執筆分担について (1) 基準責任者・項目責任者・分担執筆者の検討 (2) 本編執筆内容について検討
平成 21 年 6 月 18 日	1.機関別自己評価報告書本編執筆分担決定 (1) 基準責任者・項目責任者・分担執筆者を決定
平成 21 年 10 月 13 日	1.分野別自己評価報告書本編執筆分担検討 (1) 基準責任者・項目責任者・分担執筆者の検討 2.機関別自己評価報告書本編執筆について (1) 自己評価報告書の執筆に関する注意事項の確認
平成 21 年 11 月 10 日	1.機関別自己評価報告書本編執筆について (1) データ編等プリント配布 (2) 1 月の評価機構説明会参加について 2.平成 21 年度自己評価報告書作成について (1) ワーキンググループ委員を中心に作成することで決定
平成 22 年 2 月 16 日	1.分野別自己評価報告書本編執筆分担検討 (1) 機関別自己評価報告書本編執筆分担を元に検討 2.機関別認証評価本編執筆進捗の確認 3.平成 21 年度自己評価報告書作成について (1) 各委員会等に執筆を依頼、5 月をめどに完成で決定。

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1.ファカルティ・ディベロップメント委員会の発足・活動の開始 (1) 委員会発足に伴う新体制スタート</p> <p>2.FD 研修のあり方の検討</p> <p>3.授業方法の改善 (1) 授業アンケートの点検・充実</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1.ファカルティ・ディベロップメント委員会活動の充実 (1) 委員会発足による FD 活動の活性化</p> <p>2.FD 研修の充実 (1) コースごとに実施していた研修を BFGU 全体として実施することにより、研修効果をより高めた。</p> <p>3.授業方法の改善 (1) 授業アンケート結果を見直し、科目によって質問内容を変更する方向で今後検討することとした。アンケートの回収率も上げるよう努める。 (2) 設備面での学生の不満に対応することの必要性を確認した。</p>
<p>次年度への課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1.授業方法の改善 (1) 授業アンケート分析方法の検討と報告書の作成 (2) 授業アンケートの質問内容・対象授業の検討</p> <p>2.FD 研修の充実 (1) 見学等を含めたより充実した研修会の実施計画の検討 (2) 他の大学院の FD 活動状況の学習・研究のための研修会の検討</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 22 年 3 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファカルティ・ディベロップメント委員会規程について 2. 「学生による授業評価アンケート」について 3. ファカルティ・ディベロップメント委員会の運営の方向性について 4. 平成 21 年度 FD 研修について 本年度は研究科として全員で研修を行うことに決定 5. 今後の FD 研修のあり方について意見交換
平成 22 年 3 月 15 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学生による授業アンケート」について <ol style="list-style-type: none"> (1) アンケート結果についての意見交換 (2) 質問内容について (3) アンケート実施方法について 2. 今後の BFGU についての意見交換